



朝、気温の低い日が続いています。その分、カップに入れた水が凍っていたり、昨晚降った雨が遊具でつぶのまま凍っていたりする様子を見て、感じたり、不思議に思ったり、試したりすることにつながっています。幼児教育は、教科書ではなく、環境を通して行う教育であると再確認します。

暖かくなると子どもたちは園庭に飛び出していきます。一輪車、竹馬、ホッピング、竹馬、短縄などに繰り返し取り組んでいます。ボールを転がしたり、投げたりしてドッジボールをしています。



【ホッピング・竹馬・短縄など】「先生、見て」「数えて」の声が途切れません。自分がができること、できるようになったことを見てほしい、昨日よりたくさんできるから数えてほしいという思いを感じます。「すごいね」という言葉だけではなく、取り組む意欲や昨日より良くなっているところを具体的に認めています。

【一輪車】そら組の女兒が全員取り組み、手を添えなくても乗れるようになった人が増えました。友達と手をつないで、遠くまで進んだり、ACの渡り廊下の段差を超えたい、校庭へ降りる坂道を一人で乗って進みたいという思いをもって取り組んだりしています。できるようになりたいことに近づくよう手を添えたり、励ましたりしています。



【転がしドッジボール】ボールを転がして丸の中にいる友達に当てます。始めは、白線を意識せず、自由に動いていましたが、少しずつ白線の外から転がす、白線の中を逃げる、当たったら外に出ることが分かるようになりました。3歳児でこの経験をするのが、投げドッジボールや角ドッジボールへとつながっていきます。



【投げドッジボール】ボールを投げて白線の中にいる友達に当てます。「当たった」「当たってない」「ぼくが早かった」「ぼくの方が先だった」とボールの取り合いでトラブルになります。自分の思いをあきらめずに伝える、友達の思いを聞く(受け入れる)ための経験をしています。教師も本気で遊び、トラブルは互いがある程度納得するまで近くで見守り、決め方を考えたこと、譲ったこと等を認めています。

きりとせせん

読まれた感想・ご意見などありましたら教えてください。園長だより10 ( )組 園児名( )